

第3回 中部のいい川ワークショップに向けて 企画案

今までの中部流域連携の取組（2020-2024）から学んだキーワードがいくつかある。

- # 「世代継承」というのは先輩方の無責任、全世代が課題を共有しながら共に進めていくべきではないか
- # 楽しくなければ、わくわくしなければ長続きしない ～現場が大事
- # 山や海など、流域圏で起こっている課題は全て他人ごとではない、自分ごとにしよう

さらに今回事前ミーティングでの意見交換では

- # 伊勢湾に流れ込む川は元々起源は一緒、これを共有していくべきではないか（森誠一）
 - # 生物多様性をテーマに流域圏を共有していきたい ～根っこは一緒ではないか（清水雅子）
- などの意見が・・・（その他多数）

5年助成プロジェクトの区切りとして

「伊勢湾（遠州灘も含めていい）から見たら、鈴鹿川も木曽三川も矢作川も（天竜川も）繋がっている」
海から陸域・流域を見たらみんな仲間ではないか？
「伊勢湾大交流会」を開催しようか？

【 第3回中部のワークショップ（案） 】

日時 ; 2025年2月1日（土） 9時30分～17時頃
会場 ; 三重県四日市市楠福祉会館 ホール



タイトル ; 伊勢湾から見た私たちの流域とつながり

- キーワード # 海から見たら鈴鹿川も木曽三川も矢作川もみんな繋がる ～ 伊勢湾・遠州灘大交流会
流域治水と言う勿れ ～ 流域治水から流域総合水管理へ
時代の大きな転換期 ～ 人口減少時代を前提に考える「成長」とは？
自然資産 # 関係人口・自治 # ウエルビーイング # 継承ではなく多世代共有・共存

2025 実行委員

- ; 近藤朗（会長）、堺かなえ（全国水環境交流会）、森誠一（岐阜協立大学）、清水雅子、三ツ松由有子、新玉拓也（実行委員長）、瀬川貴之（副実行委員長）
- （22世紀奈佐の浜プロジェクト）小浦嘉門、千葉賢、下田菜生、米田紗歩、浅井雄大
- （北里大学学生／学生会会長）森陽香、（長野代表）小口智徳、天竜川ゆめ会議、
- やまかわさとみ&中田慎、河口千遥、浜口美穂
- 中村晋一郎（名古屋大学）、神田浩史、名畑恵、松沢孝晋、
- 青木伸一（大阪大学）、榎並万里子、柳田幸子
- （国・矢作川流域圏懇談会）豊橋河川事務所、アジア航測チーム、中央コンサルチーム

その他 愛知県、三重県などにも呼び掛け

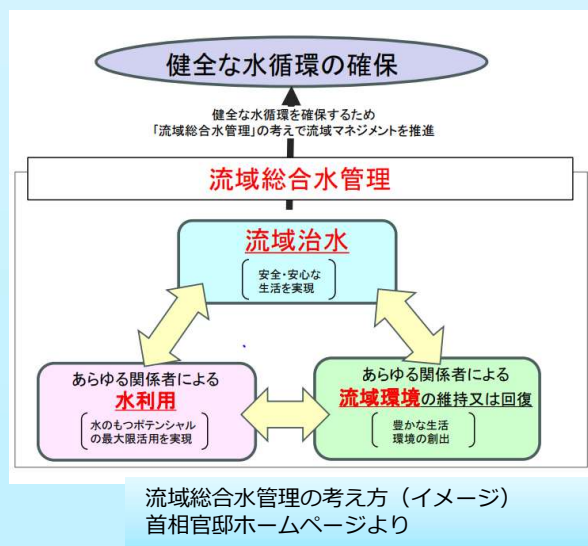
ここ数年来、「都市が流域のいいところ」で成り立っているのではないかという思いが、頭から離れない。私も含めた都市市民は便利で安価、快適な生活を求めていく中で山や海など流域圏に海洋汚染など大きな負担を強いている存在なのではないか。様々な課題が可視化されてきた今、そこから社会、生活、生き方までを変えていかなければならないと思った時、その基盤となるのが海岸漂着物処理推進法と同じく議員立法で制定された「水循環基本法」（2014年施行）なのだと認識する。流域問題の解決は＝まさしく水循環社会の再構築だというのは、言い過ぎだろうか。2024年4月、(国)水循環政策本部会合において岸田総理より従来の「流域治水」から「流域総合水管理」へと進化させるように指示があり、同年8月水循環基本計画が変更された。同法は理念法であり、どれだけの具体性を持ってくるのかは不透明であるが、以降国内109水系にて流域マネジメントのための計画づくりが進むはずであり、私たち国民は全てこれを「自分ごと」として捉え見守るべきであろう。

もう一点、サミット直後の2024年12月24日に石破総理肝いりの「地方創生2.0」が発表され、ここで重要なのは「人口減少を前提に」向き合うとしていること。これら二つの動きは大きく関連するはずであり、ごみ問題も決して無関係ではないと感じる。シン時代の健全なライフスタイルを模索すべき時代となったのではないか。遅かれ早かれ人口減少社会は都市においても向き合うべき前提条件となってくるはずであり、決して他人事ではない。それを踏まえた流域マネジメントが求められる。

例えばマイクロプラスチック汚染の様なごみ問題は単なる美化問題ではなく、第10回川ごみサミット（2024.12月）で議論したようにに既に大きな水質問題となっていることを踏まえると、水は私たち命の源であり、健全な水循環の確保として「流域総合水管理」に組み込まれるべき内容であろう。そういった意味でサミットで風間ふたば先生（山梨大学）より提唱された「水環境マップ2.0」は大きな意味を持つのではないか。河川の一元的な水質だけでなく、ごみや生物、流域治水的な視点まで、さまざまな指標で人が関わる河川あるいは流域を見ていくことが重要だと提案された。風間先生より紹介された第6次環境基本計画（環境省2024-2030）の内容は極めて興味深い。ここでも人口減少社会（+東京への一極集中）を前提としながら、「ウェルビーイング／高い質の向上」を最上位に置くことが「新たな成長」だと謳っており、これまでと（価値観などにおいて）「考え方を変える」ことが重要だとしている。これを実現させるイメージでは、国民・政府・市場という3つのセクターによる共進化という概念が表現されているが、ここでは市民でなく国民という言葉が使われていることが妙に腑に落ちる。心ある市民、行動する市民だけでなく地域社会全体で向き合うことが求められるのであろう。要は国民すべてだ。

人口増加時代、高度成長期は、高度な専門化と分業化・効率化が進んだ時代であり、このままでは立ち行かない。その副産物として生まれたのが、例えばマイクロプラスチック汚染のような環境問題なのかもしれないと思う。人口減少社会としては、ある意味先進地でもある山村の様な過疎地では、一人一人が様々な役割を担う「百姓」という役割が求められ、住民自治だけでなく外部のコミュニティも巻き込んだ「関係自治」という概念も出てきた。未来に向けて示唆すること多いのではないか。

「流域総合水管理」「第6次環境基本計画」「地方創生2.0」の根底にあるのは、同じもののような気がしているが、いずれにせよこれら計画があるからといって直ちに健全な社会が構築されるわけではないだろう。私たち国民が現状の危機とあるべき社会像を議論・共有しながら、自分ごととして政府・市場との共進を果していく必要がある。そのためのツールの一つとして、「水環境マップ2.0」を創っていったら良い。また、同じ海の課題を共有する流域の人びと、セクターが連携する意味も大きいと感じてきた。このような連携に市民も直接関わっていくことが、とても重要となろう。さて、次の10年はみなさまと共進化して行こう。



第3回 中部のいい川ワークショップ プログラム案

●開会 9:30~9:50

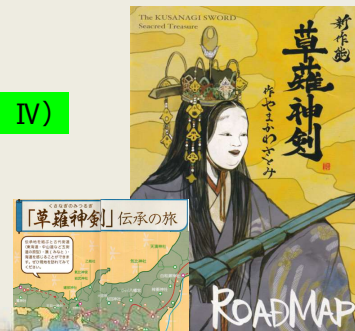
- ・開会宣言／趣旨説明 近藤朗、清水雅子、名畑恵、中村晋一郎
- ・中部流域連携への期待／中部地方整備局長 佐藤寿延（ひさのぶ）

【第1部／4つのセッション】 9:50~11:40（Ⅰ、Ⅱ）／12:30~14:10（Ⅲ、Ⅳ）

●セッションⅠ 9:50~10:50 コーディネーター 名畑恵、三ツ松由有子

流域の入口 ～ここにいない人たちを巻き込むために～

- ・話題提供（40分）9:50~10:30
 - ① 草薙の神剣とロードマップ／動画発表あり（20分）；山川里海、中田慎
 - ② （一社）ClearWaterProject 小さな自然再生、つりチケなど；瀬川貴之
 - ③ 水辺とまちの入口研究所／堀川検定&ナゴヤSUP推進協議会；秀島栄三、井村美里、川口暢子、藤井修
 - ④ 木曽川流域研究会・木曽川研修会 & ミズべる会；中村晋一郎
- * その他候補として ブラアイチなどを検討
- ・質疑応答&「流域の入口」Talk（20分）10:30~10:50



●セッションⅡ 10:50~11:40 コーディネーター 清水雅子、はぎぼう 河口千遥

流域を繋ぐ ～水循環・流域総合水管理まで視野に入れて～

- ・話題提供（30分）10:50~11:20
 - ① 矢作川流域圏懇談会；（国）豊橋河川事務所 蔭山、小池、中央コンチーム、松沢孝晋（多摩川と繋ぐ、公開セミナーなど）
 - ② 豊田市矢作川研究所の30年／矢作川森の健康診断&天然アユ調査会など；（代理）近藤朗
 - ③ 揖斐川流域圏構想；泉京・垂井 神田浩史
 - ④ 鈴鹿川流域「魚と子どものネットワーク」3世代の共有；新玉拓也、峯和也
- * その他候補として 天竜川ゆめ会議；福澤浩、木曽川中流域かわまちづくり；Tour Station 加藤広明などを検討
- ・質疑応答&「流域を繋ぐ」Talk（20分）11:20~11:40

お昼の休憩 11:40~12:30

●セッションⅢ 12:30~13:20 コーディネーター 堺かなえ、清水雅子

世代を繋ぐ ～全ての世代がこれからの新時代の担い手だ～

- ・話題提供（30分）12:00~13:00
 - ① 未来創造プログラム；地域の未来・支援センター 三ツ松由有子 with 米田紗歩、浅井雄大
動画2020「ゆく川くる川」あり ～僕たちには仲間が必要です！
 - ①-2 伊勢湾（答志島）でのアマモ場再生への挑戦；平野智也、河口千遥、小浦嘉門
 - ② 四日市吉崎海岸と岐阜県小学校の交流；千葉賢、下田菜生、山田和幸、長良西小学校の方々
 - ③ 鈴鹿川 ネコギギの保全活動；鈴鹿高校
 - ④ 矢作川流域圏懇談会 担い手づくり事例集～流域圏大学構想へ；浜口美穂、近藤朗
- ・質疑応答&「世代を繋ぐ・共有する」Talk（20分）13:00~13:20



●セッションⅣ 13:20~14:10 コーディネーター 近藤朗、堺かなえ

海から繋がる ～伊勢湾・遠州灘から見れば中部全ての流域が繋がっていく～

- ・話題提供（30分）13:20~13:50
 - ① 22世紀奈佐の浜プロジェクト；小浦嘉門、千葉賢、近藤朗、下田菜生、見屋井一輝
 - ② 長野県諏訪湖から答志島へ；近藤朗、湖浄連 小口智徳+信州大学学生
動画2020「ゆく川くる川（木遣り）」動画2024（長野放送）あり
 - ③ 矢作川流域圏懇談会・海部会 青木伸一 / 他の枠組みとの連携へチャレンジ
伊勢湾総合対策協議会・海洋ごみ対策検討会；三重県 近田達哉、八千代エンジ、テレビ愛知 など
伊勢湾再生推進会議 海域検討会；みなと総研 榎並万里子、伊勢湾フォーラム 柳田幸子
- * その他 NPOシーブリーズ 永田桂子（蒲都市での取組み）、千頭聡などへの呼びかけ
- ・質疑応答&「海から繋がる流域圏」Talk（20分）13:50~14:10

午後の休憩 14:10~14:20

【第2部／クロストーク】 14:20~15:05（話題提供）／15:10~16:40（クロストーク）

- 話題提供 ① 松沢孝晋／伊勢湾から見る流域環境
- ② 森誠一／河川の時・空間論 ざわめく自然を求めて ③ 中村晋一郎／中部から川と人の関係性を考える
- クロストーク／新玉、中村、森、松沢 会場全体も巻き込んで
- 閉会 16:40~17:00